

系統 1液弱溶剤形エポキシ樹脂系



塗料性状

	項目	内容
1	荷 姿	15 kg
2	混 合 比	1液(無希釈)
3	色	クリア
4	つ や	—
5	臭 い	溶剤臭
6	仕 上 が り 感	平滑
7	比 重 / 密 度	0.88(g/cm <sup>3</sup> /23°C)
8	溶 剤 比 重	—
9	加 熱 残 分	25 (%)
10	粘 度	22~28 (mPa・s/23°C)
11	劇 物 表 示	—
12	労 安 法 上 の 表 示 有 害 物	ミネラルスピリット, 1,3,5-トリメチルベンゼン, 1,2,4-トリメチルベンゼン, 中沸点芳香族ナフサ, ジイソブチルケトン, トリメチルベンゼン, キシレン(異性体混合物), エチルベンゼン
13	使用有機溶剤種	第3種
14	消 防 法 に よ る 危 険 物 区 分	第4類 引火性液体第2石油類 危険等級 III(指定数量 1,000L)
15	硬 化 剤 の 成 分 に よ る 区 分	—

注)上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

塗装条件

塗装方法	はけ、ローラー、エアレス
希釈率	無希釈
標準塗布量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	0.2~0.8kg/m <sup>2</sup> /回 (スレート1回目改修時) 0.08~0.2kg/m <sup>2</sup> /回 (スレート屋根2回目以降改修時)

注)上記の数値は塗装作業に必要な使用量の標準数値です。  
標準塗布量は、個々の条件によって異なります。

塗装間隔

項目	温度	23°C
	標準塗布間隔	最短
	最長	7日間

pH：適用外10 ≤ pH < 11.5

特徴

- ①1液弱溶剤形エポキシシーラーで、浸透性固化性に優れています。
- ②旧塗膜への影響が少ないので下地塗膜のリファイニングを起こす心配もありません。
- ③含浸性に優れ、下地や空気中の水分と反応し強固な塗膜を形成し硬化性も抜群です。
- ④1液タイプのため主材と硬化剤を混ぜ合わせる必要がなく、作業性に優れています。

主な適用素材

スレート屋根、波形スレート屋根、金属屋根、モニエル瓦、壁スレート等

適用旧塗膜

各種旧塗膜

注)既存塗膜が2液溶剤系ふっ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料他付着が悪い既存塗膜の場合は施工できません。

使用上の注意事項

- 1) 塗装及びスレート屋根、波形スレート屋根で、一回目の改修の場合は、光沢感が出るまで重ね塗りしてください。
- 2) 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
- 3) 下地調整や水洗いが不十分だと塗膜剥離の原因となります。また、光沢が出ないなどの仕上がり不良になる場合があります。塗り替えでは必ず高圧水洗かブラシなどによる洗浄を行い、付着物や劣化塗膜を除去してください。
- 4) 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工してください。旧塗膜の種類によって溶剤の影響により縮みや膨れ、剥がれなどが発生する場合があります。本施工前の試し塗りで確認してください。
- 5) 塗装間隔は午前9時から午後3時までの時間帯を推奨いたします。山間部や夜露の早く降りる地域では早目に塗装を終えて、十分な乾燥時間を確保してください。
- 6) 水洗い後は夏季2日以上、冬季3日以上乾燥させてください。また、カラーベスト、コロニアル表面が雨、霧などで濡れている場合は、十分に乾燥させてください。水、アルコール系溶剤の混入は絶対避けてください。
- 7) 作業を行う場合には、適切な保護マスク、保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用ください。
- 8) 素地調整や水洗いを十分に行ってください。塗り替えでは必ず高圧水洗かブラシなどによる洗浄を行い、付着物や劣化塗膜を除去してください。
- 9) 下塗りは、下地の吸い込みのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように塗り付けてください。
- 10) 塗装後、水切部(カラーベスト・コロニアルの重なり部分)に塗料が付着し、つまりが発生すると漏水の原因となります。つまっている箇所はかわすき、ケレン棒、カッターなどでたまった塗料を除去し、確実に縁切処理を行ってください。
- 11) その他塗料の取扱いについての一般的な注意事項の詳細についてはSDS(安全データシート)を参照してください。

※本製品説明書の内容には、予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。